

防長の自然学散歩－４

「海洋から運ばれて来た秋吉台」

秋吉台は石灰岩で形成された日本最大のカルスト台地です。約３億年前、古太平洋の海底火山の頂上にサンゴ礁が作られ、それがプレートテクトニクスに依る海洋プレートの移動と共に日本列島に付加されたものです。

その規模は、東西１６km・南北６km、台地状の面積が５４km²（≒山手線内側面積）、石灰岩層の厚さが約１kmとされています。この超巨大岩塊が、浅海で１億年に亘って造られた生物の残骸と言うから驚きですね。



美祿市・秋芳町

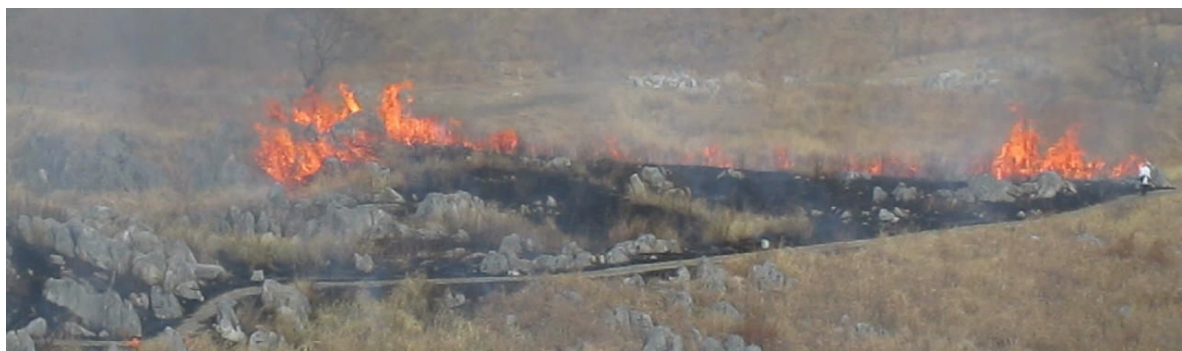
台地は中央部で厚東川により削剥・分断されています。東側は狭義の秋吉台で、国立公園に指定され自然が完全に保護されていて、県内有数の観光地になりました。台上は無数の石灰岩柱と５千個ものドリネ（凹地）が異彩を放っています。

一方西台は、一般人が立ち入る事を制限され殆んど知られていない場所ですが、工業用の採石場として開発されて、主にセメントの原料として利用されています。石灰岩は日本各地で掘削され、日本の生産量は、米国・中国に次ぐ世界第３位で、主要工業用鉱物では唯一自給率１００％であるということを知って頂きたいですね。

秋吉台では毎年２月下旬頃に、早春の風物詩「山焼き」が執り行なわれています。山焼きの起源は約四百年前に遡り、当初は牧草用や農作肥料用の確保のために行なわれていたのですが、最近では観光地の保が主な目的となりました。ここの山焼き面積は日本最大を誇りますが、周囲を「火道切り」という全長１７kmの防火帯を作る作業に膨大な労力を要し、地域のボランティアがこれを担っています。山焼きは炎の饗宴ですが、一方野火の猛威を感じさせる危険な作業でもある訳です。



秋吉台・展望台よりの景観



秋吉台・山焼き風景

【お奨めスポット：台下に秋芳洞を筆頭に多くの鍾乳洞が点在し必見。後日紹介予定】